

## 令和4年度 第3回 名張市社会教育委員会議（会議録概要）

◇開催日時：令和5年3月27日（月）9：00～正午

◇開催場所：名張市役所 2階 庁議室

◇出席委員：斉藤健委員、増岡孝則委員、生田茂夫委員、時枝民生委員、須曾野仁志委員、若山東男委員、神野稔委員、豊岡千代子委員、椿原礼子委員

◇欠席委員：廣岡茂斉委員、森永美紀子委員、守谷さおり委員、耕野一仁委員、千邑淳子委員

◇事務局：辻教育委員会委員、西山教育長、鷺阪教育次長、文化生涯学習室 松本室長、雪岡社会教育指導主事、西岡、横田、西山

◇傍聴席：なし

1、教育長・社会教育委員長 挨拶

2、議事（1）子どもの居場所の充実に向けて（委員による意見交換）

### ○事務局より主旨及び現在の名張市の状況等について説明

名張市の「生涯学習」は、現在、第二次子ども教育ビジョンを中心に進めており、「子どもにフォーカスする」ということを大きな目標として取り組んでいる。

社会教育委員の方々にも、そういった取組に関わっていただいている中で、本日は、まず、名張市の子どもの現状と課題を知っていただきたい。その上で、課題の解決や、子どもがより良く過ごせる環境を充実させるためには、どうしていけば良いのか、そのきっかけになるような話し合いを、委員の皆様にしていただき、今後の取組の参考といたしたい。

近年のコロナ禍で、子どもたちは、色々な制約や我慢を強いられている。例えば、給食時の黙食や、マスク着用での活動など、子どもたちにとっても、この3年間は大変な状況だった。この新型コロナウイルス感染症が、5月に第5類に引き下げられ、これまでの厳しい対策から、緩和がされていくという中で、コロナが子どもたちに及ぼした影響というものも見えてきている。

名張市には、小学校が14校、中学校が5校あり、その学校教育の課題として、「不登校」の増加がある。特にコロナ禍以降、その傾向は顕著である。また、不登校の状況も年々深刻化している中で、家に完全に引きこもりになり、外部との接触を取れなくなる前に、対応をしていくことが重要ではないかと考えている。

その為には、学校教育の場以外で、「子ども一人ひとりが、その長所を活かしながら、人から認められるという経験をする場」というのがより多く必要となる。生涯学習、社会教育の現場では、学校教育の場では見えにくい、例えば、おりがみが得意な子どもや、イラストが得意な子ども、昆虫が好きなお子など、個々が持っている才能が認められ、

輝いていく場面を作ることができ、そして、そういった事が求められている。しかし、それは、地域の方々のお力を借り、協力をいただきながらできない。

学校に登校しにくくなった子どもが、社会とつながりを持ち、認められ、安心して過ごせる場が、地域の中により多く必要であり、現在、放課後子ども教室や、子ども食堂、総合型地域スポーツクラブ、地域寺子屋の取組、プレイパークといったものが、その場となっている。このいくつかは、実際に名張市でもすでに取組として行われているが、これまで地域や、各市民センターで取組まれてきた様々な活動の成果が、子どもの居場所づくりに繋がっている。そして、一人でも多くの子どもたちが、笑顔になれる地域社会を作っていくことが、未来を担う子どもの夢を実現するために大切であり、名張市教育ビジョンに示された、学校、家庭、地域がそれぞれに与えられた役割を自覚し、一丸となって子どもの教育に向き合っていくことに繋がっていくのではないかと考えている。

子どもが安心して過ごせる場が、地域の中により多くできていくことが、年々増加傾向にある不登校の子どもを含め、子どもが社会と繋がる場が充実していくことになる。子どもたちが、学校に行けなくなると、極端に社会との繋がりがなくなってしまう。家にこもりがちになり、家族以外と話す機会が少なくなる。あるいは、外へ出て、誰かと話そうという意欲もなくなってしまう。そういった子どもたちが、社会と繋がって、社会性を身につける貴重な場が、地域における「子どもの居場所」ではないかと考えている。また、子どもの居場所が充実することは、これまで進めてきた、生涯学習センター機能としての、ネットワークの構築にも関連している。社会教育委員の方々には、「提言」をはじめ、子どもを核とした生涯学習ネットワークの構築に向けて、取組をしていただいている。今回のこの会議も、子どもを核とした生涯学習ネットワークの構築、あるいは、子どもの居場所の充実に向けた取組を、発展させていく場としていただき、それぞれの活動を少しでも前に進めるきっかけとなればと思うので、意義ある話し合いの場となるようお願いしたい。

## ○社会教育委員による意見交換

### ・家庭教育の観点から

子どもの一番はやはり家庭だと思う。家庭での居場所が充実していたら、その中で力を得て、社会と繋がる力もついてくるのではないと思う。家庭がまずあって、その上で、学校であったり、地域であったりの中で、色々な子どもの居場所を新しく考えていかなければならない。

### ・教育センターの観点から

教育センターで現在勤務しているが、センター内の様子を見ていると、不登校の児童が増えていて、不登校の相談であったりとか、子どもの発達の相談であったりとか、そ

ういった相談事も増えている。また、不登校の低年齢化も進む中で、発達支援といったこともより求められてきており、教育と福祉が連携しながら、家庭と繋がっていかねなければならないというのを日々感じている。

では、何を具体的にしていくかということになるが、具体的な事をするには、人の力と、予算（お金）が必要である。今、ここで、社会教育委員として名張市全体のことを考えているが、そういったこと（予算や人員の面）もお願いしていきたい。

#### ・適応指導教室 さくら教室について

教育センターに設置されている、適応指導教室 さくら教室への通級者も年々増える傾向にある。そして、通級生へは、個々の事情や特性がある為、それぞれに対応しなければならない。そういった状況の中で、学級を編成する際や、カリキュラムを組む時など、非常に工夫をしながら、職員の方々はやってくれている。

また、同じく教育センターで実施している、「週末教育事業」に申し込む方も多く、外に出たいという欲求を抱えた子どもや保護者が多いことも実感している。

そういった中で、個別に事情を抱えたさくら教室の生徒たちが、社会や地域と向き合っ居場所となるような場所を作ってあげられるかが大切だと思う。

一方で、さくら教室に通級している生徒が多くなりすぎているという課題や教育相談を受けたい方が多く、スムーズに相談を受けることが出来ないといった課題も耳にしている。こういった情勢の中で、今後も増えていくことが予想され、人的、場所的な支援が必要とも思う。すぐには難しいかもしれないが、こういった課題解決に向けて取り組みを進めて欲しい。

#### ・不登校の原因について

近年は、コロナ禍の影響で、父親がオンラインで仕事をするなど、家庭にいる時間が増えていると思う。そういった中で、家庭での折り合いが悪い子どもがストレスを抱えてしまって学校へ行けなくなっていることもあるんじゃないか。単純に「学校へ行きたくない」と理由を決めつけるのではなく、何らかの要因によって精神的な負荷がかかり動けなくなっている等、違う視点から不登校に陥った原因を探り、解決に向けて取り組む必要性もあると思う。

#### ・不登校の子どもを持つ家庭へのケアについて

不登校になってしまうとその本人のみならず、家族にも大きな精神的な負荷がかかってしまう。そういった家族に対する悩み相談や、あるいは同じ不登校を経験した子どもの克服事例などを聞ける相談窓口のようなものがあると良いかもしれない。私自身、実は子どもが不登校のような状況に陥ったことがあって、当時とても悩んだ。そういった経験から、家族が悩み、たくさんの不安を抱えていることを知っている。それを少し

でも軽減させてあげたいし、また、克服事例を紹介することで何かヒントになれば良いと思う。もちろん相談を受ける人の確保や、予算等、難しい問題もあると思う。一つの意見として参考にして欲しい。

#### ・子ども食堂について

近年の物価高や、家庭の状況等をかながみると、食事の面で子どもたちをサポートできるこの取り組みは素晴らしいと思う。子どもは美味しく栄養のあるものを食べることが出来るし、保護者も助かっていると思う。この取り組みは、こういった面から福祉の色が強いように思われるが、食堂へ来た子どもとのやり取りや、様子から家庭の状況を確認できるという良さもある。もちろんプライバシー等に配慮した形ではと思うが、教育関係の方などにも情報を共有できれば、この取り組みがさらに良い方向へ広がると感じた。

#### ・地域寺子屋について

名張の地域寺子屋では、大学生が中心となり、学習の指導や対応をしているとのこと。これは、寺子屋に通う子どもはもちろんだが、指導する側の大学生にとっても非常に良い経験になると思う。ぜひ、たくさんの大学生が参加できるように取り組みを進めて欲しい。

また、私自身、現在、大学の教授をしているが、間もなく定年を迎える。そういった中で、例えば私のように教育に携わっていた人間が、定年後にこういった地域寺子屋の取り組みに協力できることはないかと思っている。私が、特に思っているのは、家庭の経済力によって、子どもたちに学力の差が出てしまっている状況を何とかしたいということである。潜在的な力を持っていて、例えばレベルの高い学校へ進学できる素養があるにもかかわらず、経済的な理由からしっかりした勉強ができず進学をあきらめる等のケースがある。そういった子たちが勉強できる場として地域寺子屋を活用し、そこで教える指導者として教育経験者が参画していけばもっと良くなると思う。そして、学んだ子どもたちが成長し、地域で活躍する夢を描けるようにしていきたい。

#### ・地域の役割について

学校や、さくら教室、他の相談機関などに相談できる家庭以外の、周りにSOSを出せない家庭も多くあると思う。そういった家庭を察知し、サポートしていくことも地域の役割だと思っている。今、私は市民センターで、センター長をしていて、様々な場所や場面でお仕事をさせてもらっている。そういった中でネットワークを張り巡らせていき、地域での情報をなるべく手に入れられるように心がけている。もちろんすべて網羅することはできないが、少しでも困っている子どもや、助けが必要な家庭を見つけ、手助けをしたい気持ちがある。精神的なものだけではなく、例えばヤングケアラー等を

原因として不登校になっているような、様々な問題を抱えている家庭を助けたい。私自身も、小さい頃、地域の方々に育ててもらったという記憶もある。子どもの頃のこういった経験は大切だとも思っている。以前、テレビ番組で、貧困で困っている子どもをある店の店主が助け、その輪が広がっていったというエピソードを観たことがある。そんなふうに、助け合いの輪が広がって、そして次の世代へと受け継がれていくような温かいまちづくりをしていきたい。

#### ・学校以外の居場所について

教育委員会の中の組織であるこの社会教育委員会の中で議論をしてしまうと、どうしても学校へ行くことが第一の目的となり、そこへどう戻すのか、はみだしてしまった人をどうするのかという話し合いになってしまう。しかし、もっと違う生き方があっても良いのではないかと思う。学校以外で、その子が過ごしやすい場所があるのならば、そこを居場所として過ごす道もあるのではないか。そこから多様な人生の道筋を作っていくと、単純に「学校へ来ないから問題だ」となってしまう。そうすると解決はさらに困難になり、問題は長期化する恐れもある。教育委員会という範囲の中だけで議論を進めると、あまりにも矮小化してしまう。もっと広い視点から問題解決に向けて居場所の定義を考えて欲しい。

例えば、かつて、さくら教室が桜ヶ丘にあったころ、そこへ通級する子どもや保護者が隠れるようにして通っている姿を見たことがある。おそらく、学校へ行かず、適応指導教室へ通っていることを恥ずかしく思っていたのだと思う。それは、学校へ行かないといけないうという価値観が強すぎるからであり、今、そういった価値観を変えて、広い視野で考えていく必要があると感じている。堂々と通って、自分が輝ける居場所として、さくら教室がある・・・そんな世の中にしたい。

#### ・子ども会活動について

名張には、古くからその区や、自治会単位で「子どもが会」あって、活動をしてきた。そして、その子ども会活動が、学校以外の場面で、子どもたちが地域と関われる場、大人と関われる場としての役割を担ってきた。しかし、近年の少子化問題や、保護者が共働きになり、ひとり親家庭が増加したことで子ども会が衰退してきている。中には、ほとんど活動できていないというところもある。今回、子どもの居場所という事で議論を進めているが、この子ども会も居場所のひとつになりえると思う。だからこそ、現在衰退してしまっている子ども会の現状を何とかしたいという思いも強い。それには、保護者の負担を減らしてあげることや、子どもが少なくなっている地域同士を繋いで、子ども会を存続させるような仕組みづくりが必要ではないかと思う。

#### ・担当部署の垣根について

今回議論した中でも、たくさんの課題や、解決すべきことが多くあった。また、そういったものは、ひとつのセクションで解決できるものではなく、広い範囲にまたがって部署間の垣根を超えた対応が必要だと感じた。市役所は、どうしても横のつながりが持ちにくく、それぞれ単独で考えてしまう傾向にある。福祉の部署や、教育委員会、あるいはほかの部署が連携して問題解決に取り組んでいただきたい。そうすることで新たな解決の糸口や、動きが広まっていくのではないか。

#### ○意見を受けて教育委員会の見解

##### ・子ども会について

子ども会については、ご指摘の通り、活動している団体がどんどんと減ってきている状況です。現在、市内での活動団体数は、数団体程度かと思えます。そういった中で、名張市子ども会連合会が昨年4月に解散しました。解散後、名張市子ども会連合会が担ってきた業務を、市の関係団体と協議した上で、現在は「名張市青少年育成市民会議」で一時的に行っています。その中で、子ども会の活動を再構築し、現代の状況に合わせた形で継続できる方法を模索しています。青少年育成市民会議の考えといたしましては、これまでは大人が用意したところで、子どもが活動をしていくような形が中心だったものを、もう少し子どもが中心となって活動できるようにしていきたいと思っています。例えば、青少年育成市民会議には「キッズサポータークラブ」という仕組みがございます。これは、概ね20歳までの子ども、今は高校生が中心かと思いますが、そういった子どもたちを会員として募り、地域で活動しているものです。このキッズサポーターたちが関わって、子ども会の力になれないか等の検討を進めています。そして、今年を準備期間として、来年には何らかの具体的な動きを決めて、名張市全体として子ども会活動をどうしていくかの方向性を示したいと思っております。

##### ・スクールコミュニティについて

お話しの中にもありました「地域学校協働活動」についてですが、いわゆるスクールコミュニティになろうかと思えますが、取り組みを進めてまいります。現在、名張市では各校区に学校運営協議会があり、各分野で精通した方々が活動していただいています。それと対等な形で、地域を中心とした組織づくりを進め、学校と地域、双方が良い関係を築きながら子どもの事を考えていくネットワークを構築していきたいと思えます。

##### ・さくら教室について

議論の中で、さくら教室についての話題がございました。私もさくら教室と関わりを持つ中で、先日、さくら教室を卒業する子どもたちの「さくらフェスティバル」というものに参加しました。地域の方や、保護者の方に見守っていただきながら、子どもたちが

自分を表現して発表をしていました。その姿を見て、さくら教室という居場所が、その子どもたちにとってとても大切な場所であり、そしてこれから生きていく人生の中で一つの道筋だったのだと実感しました。それぞれに課題を抱える子どもたちが、輝ける場所をつくり、豊かな人生を送れるように支援していく場所として、さくら教室の在り方を考えていきたいと思います。

#### ・組織間の垣根について

委員の皆さんからもありましたが、課題解決のためには、組織の垣根を越えて取り組む必要があると思っております。課題の解決のみならず、生涯学習ネットワークを構築するためにも、垣根を超えた取り組みが必要となり、横のつながりが大切でと考えています。今回、委員の方からの意見をお聞きして、垣根を超えた取り組みの重要性を再認識させていただきました。

### ○総括

保護者の共働きやひとり親家庭の増加等、近年は家庭環境の変化から、子どもを取り巻く状況が厳しいものとなっています。そういった中で、地域での見守りや協力がますます大切になっています。例えば、親がいない時間帯に子どもをみてる「放課後子ども教室」。ただ、これについては、まだ全地域での立ち上げが実現していません。今後、全地域での立ち上げを進めていただくと共に、何人かの委員の方からも意見が出ていた、子ども会活動の在り方の見直しを進め、今の状況に応じた活動方法を考えていただきたい。総合型地域スポーツクラブの話も出たと思いますが、これは、かつてはいわゆるスポーツ少年団というものが担っていた部分です。それを保護者の負担を極力なくした形で運営しているのが総合型地域スポーツクラブかと思えます。このように形態を変え、取り組みを行えるような仕組みを考えていただきたいと思えます。

また、地域学校協働活動についても言及がありました。これについては、名張市教育ビジョンにもありますが、地域学校協働活動推進員の配置をぜひ実現していただきたい。推進員を置くことで、学校と地域間の連携がよりスムーズになり、今よりも充実した子どもを育てる環境づくりができると思っております。そして、この地域学校協働活動推進員を、学校運営協議会の一員に組み入れていただければ、なお連携が密となり、子どもを核とした生涯学習ネットワークの構築実現にも一助となると考えます。ぜひ、このあたりを進めていただけるようお願いいたします。

#### 議事（2）社会教育に関する取り組み状況について（報告）

事務局より社会教育に関する取り組み状況について報告を行う。報告については、事前に委員へ向けて資料を送付しており、本会議では、その資料に関する委員からの質問に対する回答を行った。活動内容の報告、及び次年度の予算内容について、各委員から

承認を得る。

### 3、その他

- ・中ブロック研修会について（報告）

2月7日に行なわれた三重県社会教育委員連絡協議会の中ブロック研修会について、今回の中ブロック研修会については、名張市がブロック理事となり、名張市防災センターで実施したこと、事例紹介として名張市社会教育委員の豊岡委員が発表したことを報告。

- ・三重県社会教育委員連絡協議会理事会報告

3月15日に行なわれた三重県社会教育委員連絡協議会理事会について、今年度の事業報告があったこと、次年度の総会日程（令和5年6月15日）、第54回東海北陸社会教育研究大会福井大会の日程（令和5年10月12日・13日）について説明があったことを報告。なるべく多くの委員に参加してほしい旨が委員長から伝えられる。